

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2893100061		
法人名	株式会社ファイブシーズヘルスケア		
事業所名	まんてん堂グループホームかわにし緑台		
所在地	川西市緑台7丁目3番43号		
自己評価作成日	平成30年10月6日	評価結果市町村受理日	平成31年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.wam.go.jp/wamappl/hvoka/003hvoka/hvokekka_nsf/ahvokaJisseki?OpenAgent&amp;HN0=28030012&amp;OC=01">http://www.wam.go.jp/wamappl/hvoka/003hvoka/hvokekka_nsf/ahvokaJisseki?OpenAgent&amp;HN0=28030012&amp;OC=01</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	認定NPO法人 コミュニティー・サポートセンター神戸		
所在地	兵庫県神戸市東灘区住吉東町5-2-2ピュータワ-住吉館104		
訪問調査日	平成30年12月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

まんてん堂の理念を仕事に就く際 常に頭に置き 自分達の考えた理念を 意識し 業務を行なうようすすめています。まんてん堂の理念の振返りとして 自分の親を受けさせたいか。自分自身が受けたいか。子供達に伝えていけるか。自分達の作りたい施設は 自然に笑顔になり その人らしい生活が出来る施設。その人らしいという中で 試行錯誤の毎日の中 入居者様の笑顔、何気なくかけてくださる言葉で 職員も笑顔にさせて頂いています。1人ひとりにあったペースで寄り添い 支援することを心がけています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「自然な笑顔」をキーワードに職員が考えた理念は、日々の介護に反映され、職員の声掛けや動きは入居者の考えを尊重し、支援することを意識したものとなっている。入居者の生活ペースは乱されることなく時間はゆっくりと流れ、居心地の良い自立した生活に繋がっており、また家族からは職員の笑顔と明るい雰囲気・丁寧な対応が評価されている。食事やおやつレクリエーションは職員と一緒にメニューを考え、調理する。季節行事や外出行事のほか家族との一時帰宅や墓参りを実現したり、広い屋上で菜園作りをするなど屋外活動の工夫もしている。また、自治会の認知症カフェに参加して馴染みになったり、文化祭で作品ブースをもらったり、ボランティアが毎月体操・楽器演奏等で訪れるなど地域との交流も進んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームかわにし緑台

評価機関:CS神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分達で作った理念の継続。各ユニット入口に大きく掲示することにより、各スタッフが常に意識し実践できるように努めている。	法人の理念を玄関に掲げるとともに、各ユニット入口前の壁面に「自然な笑顔」を共通のキーワードとしてユニットごとに職員が作った理念を掲げ、事業所内での共有と浸透を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会が行なっている各イベントに参加し、地域との交流関係を続けている。(いこいカフェ、文化祭、夏祭りなど)	入居者が地域で毎月開かれる認知症カフェに参加するほか、地域ボランティアが体操・書道・音楽療法・サックスの生演奏などで訪問してくれる。自治会の文化祭では当施設専用のブースを作ってもらい入居者と職員で作った貼絵の作品を出展した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などを通して、状況を知っていただくような機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に運営推進会議を行ない、その中にて報告を行なっている。入居者様にも出席していただき、意見などをお聞きしている。	運営推進会議には地域包括支援センター職員がほぼ毎回出席し、民生委員・家族・利用者も出席して情報交流・意見交換を活発にしている。市職員・知見を有する者は出席していない。活動報告・事故報告も掲載した運営推進会議議事録は全家族に送付している。	運営推進会議では目標達成計画の進捗状況と評価を議題にする必要があります。毎回ではなくとも、年に2回程度は目標達成計画も議題とすることを望みます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあれば市役所、地域包括支援センターなど相談・報告を行なっている。(入居中の家族様、進め方など)	市役所担当課とは加算などの事務手続等を中心に相談している。地域包括支援センターとは、入居を希望する家族からの相談への対応や調整の方法等についてよく相談し、連携をとって対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内社員研修の場にて研修を行っている。グループホーム内での行き来や、1階と2階の行き来は、職員同士連携をとりながら自由に出来るように努めている。身体的拘束適正化検討委員会にて、3カ月に1度検討会を開催、運営推進会議の場で内容をお伝えしている。	ユニットの入口は階段からの転落事故防止の為家族に了解を得て施錠しているが、ユニット間の通路は扉を開放し入居者が自由に行き来している。入居者4人は夜間の安全の為家族の同意を得てセンサーマットを利用しているが、継続するか毎月その必要性を見直している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内社員研修の場にて研修を行っている。(年2回)職員同士、日々の業務の中で振り返り、気になることはお互いと言える関係性がある。	虐待防止についての研修を年2回行っている。ユニットごとに職員が毎月のスタッフ会議で気付いたことを報告し意見交換して不適切なケアや虐待の防止に繋げている。管理者は職員との面談でストレスや悩み事などの相談にも対応している。		
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	職員にとって難しいイメージがあり、身近なもの、必要なものとして研修を受けれるように努めたい。	過去には成年後見制度の利用者がグループホームと小規模多機能型居宅介護で1人ずつ居た。今は権利擁護に関する職員研修は行なえていないが、本年度中に予定している。今後は家族からの相談も増えることを予想して、どのような研修をすべきか考慮中である。	今後は権利擁護を必要とする人や家族からの相談、実際の入居が予想されます。職員研修の内容については、成年後見等の制度や実際の対応に関する検討を深め、そのような場合に備えることを期待します。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、ゆっくりと時間をかけて説明を行ない、その都度、疑問点や不安点を何度でもお聞きいただけるよう努める。	契約時には、重要事項説明書・利用契約書・入居契約書・重度化した場合の対応に係る指針等を十分に時間をかけて説明している。併設の小規模多機能型居宅介護からの入居者が多いこともあり、事前に見学もし、納得して入居する人が大半である。		
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所入口に意見箱を設置している。また、運営推進会議内で意見をお聞きしたり、運営推進会議の案内状に意見を書いていた項目を設ける。	来所時や運営推進会議出席などの機会に利用者・家族の意見や要望を聞くようにしている。最近では家族の申し出で月1回の体操ボランティアをしてもらったり、秋祭りの会場を屋上にするか室内にするかの意見を家族に聞いたりした。	家族会は以前には開催していたようです。運営推進会議以外に家族の意見・要望を聞く機会として有効と考えられますので、家族会の再開・継続を検討されることを期待します。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と本部の月に1度の面談があり、状況などを伝える機会がある。職員の意見を聞いたり、提案を聞くように心がけている。	従来から毎月のユニット会議やリーダー会議で職員からの意見を聞き、運営に反映してきた。例えば現在はユニットが別々に開いているミーティングを職員からの意見により合同で開催することにして、日程を調整している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	随時、必要な研修を受講できるように進めている。年度ごとに各自で目標をたて、それに向かい一つでも達成できているか振り返りも行なっている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、内部の研修を受講できるようにすすめている。自分達で参加型の研修を行ない、実践に活かしている。(食事ケア、移動・移乗など)			

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内での交流があり、意見交換や取り組み方などの話し合いを行なっている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より支援を導入するうえで、本人の要望・不安点など聞き取りを行なう。、生活の様子を見守り、職員同士協力し信頼関係づくりに努めている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談にて、家族と困り事や要望などをお聞きし関係づくりにつとめている。面会・電話やメールで様子をお伝えするよう心掛けている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時に、必要と思われる支援、本人・家族の希望なども取り入れてサービス利用をお伝えしている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の思いや行動を尊重しコミュニケーションを大事にしている。近すぎず遠すぎない距離感を考え、過ごしやすい生活空間を作れるように努めている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	その都度相談し、家族の思いを尊重し一緒に支えていくように努めている。普段より電話やメールにて家族と連絡を取り、つながりを大切にするよう努めている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・知人など面会時には、居室や交流室にてゆっくりと過ごして頂けるようにしている。家族と自宅へ帰ったり、法要で親類と過ごしたり関係性を大切にしている。	友人や家族の訪問時には時間の制約を設けず、居室や地域交流室を自由に使ってもらっている。施設で礼服を着せてもらって家族と法要に行ったり、一時帰宅して帰省中の孫と食事する入居者もいる。毎月行く認知症カフェでは新しい馴染みの関係も出来ている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格や様子、入居者同士の関係を把握し、互いが関わり、孤立しない生活支援につとめている。		
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談があれば協力が出来るように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様との会話のなかから思いを把握し、家族からの情報をもとに希望に沿えるように努めている。	普段の生活での会話、表情から思いを把握している。特にくみ取りにくい方には、少しでも笑みを浮かべる話題はないかと注意を払っている。また、家族からの情報も参考にする場合もある。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前の生活情報を、日々の会話の中からお聞きしたり、家族から聞くことで馴染の暮らしの理解を深めるように努めている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を記録に残し、体調の変化や様子を観察し状態を把握している。変化や気付いたことは記録し、職員間で共有している。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望をくみ取るべく、普段の生活の様子を介護職だけではなく家族・Dr・訪問看護師と共有し、意見交換をしたうえで介護計画書へつなげている。	介護計画作成担当者が主となり、介護職に偏らず主治医、訪問看護師、家族からもバランス良く意見を聞き、毎月のケア会議で意見交換を行い、介護計画につなげている。また必要があればその都度見直しを行っている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護・業務記録、申し送りノートを活用し最新の情報を職員間にて共有。ケア会議などでも話し合い常に見直し・実践をおこなっている。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物・受診など、出来る限り対応するように努めている。入居者様と家族様の関係が絶えないように手紙・電話にてつながりを保つとともに、代行できることは行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事、催しものに参加。(オレンジカフェ・祭り・文化祭・消防訓練など)		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診、訪問看護(月2回) 訪問歯科(月4回)薬局などと連携を図りつつ、希望の医療機関のある方には継続し受診して頂いている。	協力医療機関の往診が月2回あり、歯科についても毎週訪問歯科がある。入居者、家族の希望により、入居前からの受診も継続しているが、家族宅や受診先が遠方で不便な場合は協力医療機関に同じ受診科目があれば紹介している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師へ、事前に状態を報告し健康チェック、確認を行なっている。電話では24時間いつでも相談出来る体制をとっている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、直ぐに医療情報が伝えられるよう纏めたファイルを作成している。入院中は連絡、面会を通して、状態の把握している。退院時にはカンファレンスを行ない、帰設後の対応に努めている。	入院時には入居者の情報をすぐにFAXできるようまとめている。また入院中の様子を把握出来るよう努めている。早期の退院に向けて、医療機関や家族と良く話し合いスムーズに受け入れられるよう体制を整えている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前、契約の時に説明をしているが、再度、重度化された時に、事業所にて出来る事、出来ない事を説明し、ご利用者様に最善の方法を選択して頂けるように、本人・家族・医療機関と話し合うようにしている。	重度化した場合に事業所で出来る事、出来ない事を入居契約時にあらかじめ説明している。入居後、病状が悪化すれば協力医療機関の医師からタイミングを見計らって家族に容体を説明している。医療的に問題なければ訪問看護の支援も得て、ターミナルを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	自主的に救急救命士の講習を受けている。数日に分けて、多くの職員が研修を受けており、今後も定期的に研修を継続していく必要がある。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設全体で日中、夜間想定での消防訓練、災害時の訓練を行なっている。備蓄完備。	年2回、昼間や夜間を想定し、入居者と共に総合訓練(通報、避難、消火)を行っている。うち1回は消防署が立ち合う。消火訓練については、水消火器で訓練している。またハザードマップを参考に災害対策も行い、備蓄は3日分を用意している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の立場にたって、尊厳を守るよう努めている。入浴・排泄など、声のかけ方、露出が最小限になる工夫をしている。	入居者の普段の表情、行動に注意をして、尊厳が守れるよう声掛け、介護を行っている。特に入浴時は脱衣室にパーテーションを置き、また同性介助を原則とするなどの配慮をしている。ボディチェックが必要な時は最低限の露出に止めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中から、思いや希望を把握し支援に努めている。入浴時間やトイレの時間など声かけさせて頂くが、自己決定出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを尊重し、押しつけない支援ではなく希望を取り入れて、日々の生活を過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの好みに合わせ、それぞれの季節にふさわしい服を選びをしている。化粧品なども、その方らしく楽しんでいただいている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	米とぎ・盛り付け・食器洗い・メニュー書きなど、会話や歌を唄いながら、一人ひとりが出来る事をして頂いている。月に2回、食事レクがあり、何が食べたいのかをお聞きし、一緒に楽しみながら調理している。	入居者からすすんで米とぎ、盛り付け、メニュー書き等行っている。食事中は季節を感じるオルゴールの音色のBGMが流れていた。食事レクリエーションではミッキーマウスの形のパンケーキ、お好み焼き、パースデイケーキも作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事量・水分量を記録し、不足の時には補助食品や好みの物を提供している。体調が悪い時には、トロミ剤の使用やゼリーを作り提供している。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行って頂いている。ケアの必要な方には職員にて行なう。歯科往診(月4回)により診ていただいたり、指導をもとにスポンジブラシや、うがい剤など使用することもある。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄間隔に合わせた声かけを行ない、出来る限りトイレでの排泄支援をしている。立位が困難な方には、職員が2人介助にて対応している。体調不良など、一時的にオムツを使用することもあるが、回復の後、トイレでの排泄に戻す支援を行なっている。	個々の排泄間隔に合わせて声掛けを行い、腹圧が掛かるようトイレに座ってもらっている。体調不良になりオムツになっても、回復すればトイレでの排泄支援に戻る。立位が困難な場合には2人介助を行ってトイレに座ってもらえるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その方の排泄リズムを意識し、水分量の把握、運動や乳製品など利用をしている。Drと連携し、薬を使用してコントロールしている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとり希望を伺い入浴して頂いている。入浴剤なども使用し気持ちよく入浴して頂けるように努めている。嫌なときには時間・日にちを改めて声をかけている。体調により入浴出来ない方には、ドライシャンプーや清拭などの支援を行なっている。	個々の入浴習慣によるが週に2~3回入浴している。曜日は固定せず、午後眠くなる入居者には午前中に声掛けを行っている。その日が嫌だったり、その時間が嫌だったりすると改めてまめに声掛けを行っている。シャワー椅子などの用具を利用し安全を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方が眠りたい時間まで職員が付き添ったり、眠れない方には、温かい飲み物をお出ししたりしている。その日の体調や気分などある為、本人の希望を優先して支援を行なっている。日中にソファなどで眠られている時には、声をかけ居室にて休んで頂くこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表を作成し確認できるようにしている。薬に変更があれば、申し送りにて全員が分かるようにし、状態の変化に気を付けている。排便コントロールなど、その方の日々の状況に合わせて調整している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの役割、楽しみごと、生活歴を理解した上で、日々楽しんで頂けるように支援している。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとのドライブや外出、屋上にある菜園での作業など支援を行なっている。家族との買い物や、自宅での食事など協力して頂いている。	広い屋上があり、そこでの菜園の手入れ、土いじりを日常的に行っている。また家族の協力を得て買い物、外食の支援も行っている。四季を感じる花見や紅葉狩りなど車でのお出や秋祭りの行事にも参加している。	地域との交流、車で季節を楽しむ外出、家族との外出支援と非日常的な気分転換はできています。日常的には広い屋上を活用して菜園作り以外にも日光浴等、外気にあたる工夫をしてはいかがでしょう。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を自己管理されているかたはノートに記入し、自身にて管理されている。外出時に化粧品やおやつを購入され、自身にて支払いをされる。所持金については、家族と連携し把握している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、家族へ電話をかけたり、家族からの電話を取り次いでいる。自身の携帯電話を利用されている方もおられる。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要のない危険なものは置かず、安全に利用して頂けるように配慮している。トイレや洗面台など、汚れがあればその都度清掃し、それ以外にも日に2回の清掃を行なっている。入居者様と季節に合わせた飾り付けを作成し、季節の変化を感じて頂けるように工夫している。	リビングのテーブルは高さが調整でき、最適な姿勢でテーブルにつく事が出来る。入居者が作成した習字、貼り絵等の手作り作品が壁面に掲示されていた。トイレ、洗面台は良く清掃されていて、清潔感のある空間である。また加湿器も適切に管理されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの居室にて一人にてゆっくりとされたり、フロアにて皆と談笑したりされている。ソファに座り眠ったり、TVを見たりされている。パーティーで空間をつくることもある。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より使い慣れた家具、写真などを持ってきて頂き、安心して生活して頂けるように工夫している。	クローゼット以外のテレビ、ベッド等は持ち込みである。自宅のように思い出の写真、趣味の作品が飾ってある。居室は明るく掃除もされて、臭いもなく清潔感がある居心地の良い空間である。日々必要な物は手の届く範囲で配置してあり、生活感がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に歩行して頂けるように手すりの設置、角があるものには保護材にて保護している。居室、トイレ、浴室などには手作りの飾り付けをし分かりやすく工夫している。		